12/4(土) まいど！倫々号です この時間となり失礼します この反省の繰返し
承知しました
幸せ運ぶアホー鳥

今週の倫理

2021. 12. 4～12. 10

12月のテーマ ｜ 後始末

1258号

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋（一九二一―一九九九）のことばを掲載いたします。

後始末が前進を生む

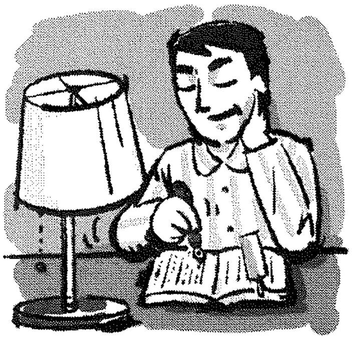
丸山竹秋

私たちの毎日の生活は、たとえ同じように見えても、実際はいくらかずつ異なっている。雨も降れば、風も吹く。食べものでもいつも同じというわけにはいかないのである。子どもは毎日成長するし、逆に親自身は毎日老いていく。

円やドルの相場が毎日変わっているように経済状態もたえず変化する。政治も何もかも常に変わっていくのが、この世の実相だ。これを一歩進めると、「毎日毎日、新しい物事に直面しながら生きていくのがこの人生」といえるのである。

うまくいったり、失敗したり、その繰り返しであろう。うまく運んだときには、どこがよかったのかと研究する。失敗したときには、どこが悪かったのかと検討する。研究とか検討とかいえば、大げさなようだが、簡単にいえば、思い返して工夫を重ねるということだ。つまり反省である。

よくても、悪くても反省である。そのときその場にこの反省をする。あるいは夜やすむ前とか、一日のピリオドを打つとき、かならずその日をふり返って、この思い返しをしておく。神仏や親祖先の霊にご挨拶をするときなど、こうした研究や検討の結果をご報告するのは尊いことである。



よくいわれる「一件落着」とは、その事件はこれで解決したという意味であろうが、解決したのならどこがうまく運んで、そうなったのか、ポイントだけでもはっきりさせておく。これが解決の、その後始末である。一件落着の研究、検討、つまり反省が、その次の事件に役立つのだ。

一件というのは、かならずしも大事件というわけではない。平凡で、平穏な毎日もある。その中でも新しいことはいくつもあり、些細なことでもうまくいく、あるいは失敗することがあるのだから、それぞれを一件、一件とみていくと、一日には何件もあるだろう。その一つ一つについて、こうだからこうなったのだと締めくくりをつけておく。それらを拠りどころにして、また明日を迎える。この心構えが前進につながるのである。

理屈っぽくなれというのではないが、一件あれば反省し、後始末をつけておくのが次の前進を生むのであり、ぼうっとしていれば後退あるのみと知りたい。この一件が、小さいものから大きなものになればなるほど、その研究、検討がしっかりなされるべきである。

商売事業、健康や育児教育、スポーツその他にわたって、こうした研究がなされているだろうか。どうもなされていない向きも多いのではなかろうか。うまく運んだ場合の反省研究こそ、次の前進の大切な基礎となるのだ。

（『つねに活路あり』より）

え・城谷俊也